

会 議 録

会議の名称	令和6年度 第3回和泉市総合教育会議
開催日時	令和6年9月19日(木) 午後2時00分から午後3時15分まで
開催場所	市役所3階 3A・3B会議室
出席者	<p>[構成員] 辻市長、大槻教育長、深堀教育長職務代理者、酉家教育委員、久米教育委員 中西教育委員、小谷教育委員</p> <p>[事務局] (教育委員会) 並木参与、辻教育次長兼生涯学習部長、東教育・こども部長、上田教育指導 監、阪下学校教育室長、仲谷教育指導担当課長、福元教育指導担当主幹、鍛冶 教育・こども部次長兼教育総務課長、大西教育総務課長補佐兼総務係長、吉田 教育総務課企画係長、西川教育総務課主事</p> <p>(市長部局) 門林政策企画室長、福田企画経営担当課長、中企画経営担当総括主査</p>
会議の議題	(1) 学校のICT活用について
会議の要旨	・第2回会議のふり返りと学校教育情報化推進計画(案)に盛り込む内容について意見 交換を行った。
会議録の 作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の 確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
その他の必要 事項	会議公開・傍聴者2名

1. 辻市長から、開会の挨拶
2. 事務局（市長部局）から「第2回総合教育会議のふり返し」について説明
3. 事務局（教育委員会）から「学校教育情報推進計画（案）に盛り込む内容について」について説明

4. 意見交換

【大槻教育長】

○GIGA端末の選定については、指導主事がOS選定の作業部会にて情報収集を行ったところ、社会に出たときに使う会社が多いWindowsに慣れ親しむよりも、WordやExcelも活用でき、かつ、操作性の良いiPadの方がよいと判断した。

○高性能パソコンや3Dプリンター等を教員が活用できるのか。

○子どもたちが活用に困ったとき、教員はアドバイスができるのか。

【事務局（教育委員会）】

○3Dプリンターやドローンについては比較的容易に使えるものを導入し、ICT支援員の支援も受けながら活用していきたい。

○高性能パソコンは、文部科学省の通知にもあるとおり、教員が使うのではなく、子どもたちが高度な作業を行う際に活用することを想定している。

○スキルを持った教員を育成するため、研修を行いながら、段階的に導入していきたい。

【深堀職務代理者】

○現在のビジネス現場ではWindowsが主流であるが、小学校や中学校でiPadを使ってもWindowsが使えなくなることはない。

○高性能パソコンやドローンなどについて、地域人材に教えてもらったり、部活動で学習するのもいいのでは。

【事務局（教育委員会）】

○iPadもキーボードをつけて使う予定であり、基本的なパソコンの操作スキルは学ぶことができる。

○本市では全校でコミュニティ・スクールの導入を進めており、パソコンの活用についても地域人材を生かすことができていると思っている。また、部活動での地域人材の活用についても考えていきたい。

【西家委員】

○iPadはインターネットへのアクセスが速く、Windowsは個々のセキュリティを重視している。iPadが安全に活用できるのであればメリットが多いのでは。

○学校間、教員間のパソコン活用スキル格差によって、レベルダウンする子どもが出ないか注意しないといけない。先進国の調査結果等あれば教えてほしい。

○高性能パソコンの活用については、授業の枠を超え、普段使っているパソコンではできないこと、パソコン教室でしかできないことをするのがよい。

○パソコン教室の使い方として、強固な回線を活用し、企業や大学と連携をとる使い方や、子どもが教員に教えたり、企業が教員を指導するなど、学校にいながら教員を教育・指導する使い方が考えられる。

【事務局（教育委員会）】

○授業がレベルダウンしないよう、指導要領の内容に基づいてパソコンを活用していく。その中で文房具のように一人一台端末を使い、効果的に知識理解を深め、主体的で対話的な深い学びを進めることができるようにしていきたい。

○パソコン教室については、新しい学びの場だと思っている。企業や複数の子どもとのやり取りなど、子どもたちがやりたいと思ったときにできるような場にしたい。

【久米委員】

○端末の重さは子どもたちにとって大事な視点であり、軽い端末になることは小学生の保護者として安心である。また、起動の速さについては、習い事などで忙しい子どもたちがすぐに起動して取り掛かることができ、互換性については、保護者が持っている端末を共有することができるといった良さがある。

○iPadになるとWordやExcelについては学びなおしが必要になる部分もあると思うが、今の大人よりも学ぶのが速いので、心配はしていない。

○高性能なパソコンを使う仕事もあり、小学生という早い段階で慣れ親しむことは、次代を担う人材の育成につながるのではないかと。パソコン教室の活用方法については引き続き検討してほしい。

【事務局（教育委員会）】

○文部科学省の通知にも、「一人一台の端末がある環境において、発展的な学習に取り組む意欲のある子どもに対応するため、パソコン教室に高性能パソコンを配置することも考えられる」と記載があることから、どのような取り組みができるか考えていきたい。

【中西委員】

○機種を選定についてはiPadでいいと思う。

○パソコン教室はアクティブラーニング教室や図書館と連携した高度な情報センター機能のある教室を目指すべき。

○一人一台端末で一定レベルの力を習得しつつ、ハイレベルな問題意識や興味関心のある子どもを更に高めていくことが必要になってくる。

○3Dプリンターや高性能パソコンを教育委員会として確保していく姿勢は評価する。

○桃山学院教育大学にドローンに精通し熱意を持って取り組んでいる教員がおり、オープンキャンパス等で中高生に飛ばし方を教え、子どもたちが意欲をもって取り組んでいる様子を見た。新しいことに触れながら学んでいくことが大事。

○放課後学習での活用も、無料で行ってほしい。

【事務局（教育委員会）】

○授業外での活用として、中学校であれば部活動が考えられる。小学校は課外活動は難しいが、総合的な学習の時間や特別活動など、教科を横断する授業の中で使っていきたい。

○子どもたちの「やってみたい」を実現する一つの手段として提供できるよう進めていきたい。

【小谷委員】

○端末の活用は、今までの集団学習から個を大切に学習への転換時期であると思っている。全員の端末の回答を画面に映し出したり、子ども一人一人の進捗状況を確認できるなど、インタラクティブなことができることで、子どもたち個々の習熟度が明確になり教育の強化が可能になるのでは。

○インタラクティブな環境を作ることがICTの環境づくりである。

○教える人的資本が内部にいないのであれば、オンラインなどを活用し、外部人材と連携することで、教員と

子どもが共に学ぶ場を作ってはどうか。

○カメラで高い画質の写真や、動画が撮れる、Web環境が常に整っているところがiPadのいいところ。

○ただ、iPadではできないこともあるので、物足りない場合は子どもが腰を落ち着けて操作できるパソコン教室も必要ではないか。

○ICT全般を管理する人材が学校にいるかが課題。誰がどのようなアプリを使って管理していくか決めることが重要。いいアプリがあるほど活用が広がる。

○大きな画面で共有できる環境を作ってあげてほしい

○Zoomなどのオンラインソフトを活用し、全国の学生とつながるなど、iPadを最大限に活用してほしい。

○前回の会議で音楽や技術の授業では使いにくいとの話もあったが、3Dプリンターなど活用できるものもある。

【事務局（教育委員会）】

○iPadを選ぶことで制限がかかるものもあるが、それに代わるものを提供できるのがiPadの強みでもあると考えている。

【辻市長】

○槇尾学園・富秋学園にパソコン教室はないがどうするのか。

○現在学んでいるプログラミング言語は、ドローンや3Dプリンターで活用できるのか。

【事務局（教育委員会）】

○槇尾学園や富秋学園については、多目的ホールや図書館をアクティブラーニング教室として活用していきたい。

○ドローンや3Dプリンターはプログラミング言語を活用せず、直感的に活用できるようなものになっている。

5. 事務局（教育委員会）から「時代を先取りした授業スタイルの教員への助言、ICTが不得意な教員への支援」について説明

6. 意見交換

【教育長】

○学校間格差をなくす方法として実証されているので、効果的な活用に向けしっかり取り組んでほしい。

○子どものSNSの活用には制限をかけるニュースを見た。ICT先進国と言われるスウェーデンでは紙媒体の教科書に戻している。ICTをうまく活用できていないためとの指摘もある。

○ICTを活用しながらも、本来学校が子どもにつけさせたい力、何を教育したいかを考えながら進めてほしい。

【深堀職務代理者】

○有識者に意見をもらいながら授業をアレンジしてしてもらいたい。

○学校側のニーズに合った支援にした方がいいと思うので、現場からの要望も受け止めながら進めていただきたい。

○教育長の意見にもあったが、道具をうまく活用していくという点について肝に銘じて進めてほしい。

【西家委員】

○ICT支援員は教育や指導に詳しいわけではないため、最終的に教育は教員の責務になってくと思うが、

デジタル的な表現力など、子どもたちにも格差があることをICT支援員に教えないといけないのではないか。
○ICT支援員が教室にいる時間が長ければ長いほど、教員とのすり合わせがしやすいのではないか。

【事務局（教育委員会）】

○これまでICT支援員と教育委員会が打ち合わせを密に行ってきたが、これまで以上に連携をはかるため、教員対象の研修に参加させたり、市が目指す授業についての共通理解を図っていききたい。

【久米教育委員】

○ICTの活用が得意な教員と不得意な教員の差が保護者から見てもはっきりわかる。教員本人が自分のスキルについて理解しているはずなので、職場環境にストレスを感じているのではないか。現場の教員からアンケートを取るなど、困り感を把握した上で研修してみるはどうか。

○また、教員からの意見に基づいた研修だけでなく、スキルのある教員は能力を伸ばしていけるような研修を積極的に実施するなど、幅広い研修メニューを用意していただきたい。

【中西委員】

○ICT支援員も多様性が必要。教員との一体感も強めていく必要がある。

○教員間で分からないことやできないことを共有して学び合うことが基本。ICT支援員も巻き込んで、OJT的な教員研修を実施してほしい。

○朝のモジュール時間をICTに活用できないか。

【事務局（教育委員会）】

○朝のモジュール時間を活用している学校の事例はある。

【小谷委員】

○ICT支援員を提供している事業者は教育に詳しいはずなので、何をしないといけないか事業者から吸収していかないとけない。

○作成する学校教育情報化推進計画では、ICTのニーズ調査だけでは小さくなってしまうので、どういう教育を目指していきたいかといったニーズ調査も行い、教員も子どもたちも幸せになるICTの使い方を考えてほしい。

○子どもたちにはICTを活用して共同作業をし、できた経験や喜びを積んでほしい。

【辻市長】

○学校間格差や教員間格差に対する取り組みについて先進事例があれば教えてほしい。

○学識等からの指導助言のため一律に費用を確保するということが、重点的な支援も必要ではないか。

【事務局（教育委員会）】

○学校間格差や教員間格差は全国的な課題であり、各校の好事例を水平展開していくことが多いが、教育委員会に相談できる担当を設置し、いつでも相談できるようにしている事例や、チームを作って各学校を回って対応する事例があるので、先進事例も取り入れながら進めていきたい。

○活用率の低いところから優先しながら、3年間で全校を支援していききたい。

【辻市長】

○ICTの活用が苦手だからということで教員が避けるのではなく、教員の意識改革をし、全体のレベルアップを図っていただきたい。

【西家委員】

○小学校からのICTの活用は視力の低下を招くなど懸念点があることから、海外で制限する動きがあると聞いている。

○小さいころからICTを活用することによる懸念点について伝えることも教育であると思うので、学校教育情報化推進計画に健康の視点を入れてもよいのでは。

【中西委員】

○桃山学院教育大学が来年4月に桃山学院大学に移転してくることになった。ICTをはじめ、学力向上や健康・スポーツを中心に連携を強化し、大学生にとっても本市が実習フィールドになるような取り組みができればと考えている。

【事務局（教育委員会）】

○桃山学院大学は本市にとって貴重な教育資源なので、今後とも連携していきたい。

【小谷委員】

○教員が自分のスキルの見える化を行い、ステップアップできるよう、スキルシートを作るのもいいのでは。

【事務局】

○以上をもって、令和6年度第3回和泉市総合教育会議を終了する。

< 終了 >